

## ◆ 立川都税事務所長賞 ◆

### 「三百円の指輪と消防士」

にしみたか学園三鷹市立第二中学校 3年 田村 愛佳

税金は私たちの生活をよりよくしてくれる。よく世間で言われている言葉だ。しかし私は、それももちろんだが、税金は私たちを安心にし私たちの命を守るものだとも思う。これを感じたのは、ある二つの経験からだった。

一つは中学三年生の春のことだ。春休み、私は友達と新大久保に出かけた。そこで、私は三百円の指輪を買った。大人達が使うようなブランドものと比べたらとても安いものだが、私は中学生なので決して安くても、見た目が気に入ったそれを買った。そしてすぐにそれを指にはめた。少しきつかったが「まあ大丈夫だろう」と思い、引き続き友達との買い物を楽しんだ。

そして家に帰り、手を洗うために、はめた指輪を取ろうとした。しかし、指がぷっくらと膨らんでいて全く取れなかった。石けんですべらせたり、ネットで調べた糸を使って取る方法を試したりしても、全然取れなかった。やばい、どうしよう。とても焦った私は母に相談し、次の日に消防署へ行くことにした。どうやらそこでは、指輪をカットして頂けるらしい。

朝9時、私と母は大雨の中かっぱを着て自転車を漕ぎ、最寄りの消防署へ足を運んだ。署長さんに、むくみにむくんで取れなくなった指輪を見せた。すると、署長さんは大きな刃物のようなものを持ってきた。後で調べたら、それはリングカッターと言い、取れなくなった指輪を切断するためのカッターらしい。私は、とても怖かったし、恥ずかしかった。そんな中、署長さんは、「大丈夫だよ。中学生でも君みたいな子は沢山いてよくうちに来るんだよ。心配しないでね、おじさんが必ず切ってあげるから。」と優しい口調で言った。その言葉に私はとても安心感を覚えた。そして、始めはなかなか切れなかった指輪も15分程経ったらカチッと切れた。私と母は何度も消防士さん達に感謝を述べて家に帰った。

もう一つは私が家でSNSを見ていた時だ。動画をスクロールして見ていると、衝撃の動画が流れてきた。それは大火事の中自分の顔を失ってでも人を助け、全身やけどを負った海外の消防士の動画だ。それを見た時、私は前の春の指輪の件でお世話になった消防士さんを思い出した。そして彼らの給料は、公民で学んだ税金で賄われているのも思い出した。

税金は医療や教育、公共事業など国民が暮らしやすくなるように多くの場合で使われている。だが、税金は何かと悪いイメージを持たれやすい。私もそうだった。余分にお金を払う必要があるのだから。しかし、私はこれらの二つの経験から、税金は間接的に私たちを安心にし命を守ってくれているのだと感じた。もし税金がなくて教育が有料、警察・消防がいなかったらどうなるだろう。私はまだ本格的な納税者ではないが、将来は私を守ってくれる恩返しとして、税を納めていきたい。